

びょういんあーとぷろじえくと 2025

とどける・ むすぶ

よういん
あーと
ぷろじえくと

5/12(月)～9/27(土)

とどける・むすぶ展に寄せて

テキスト

北海道大学大学院
メディア・コミュニケーション研究院
研究員 加藤 康子 氏

病や心身の機能の衰えや不調などは、誰もが人生のステージのどこかで遭遇するであろう深刻なテーマです。治療やケアの場では、どれほど不本意であつても誤魔化すことも逃げ出すことも出来ない自分の心身や生活の現実と向き合うことを追求めます。これまでも当たり前で意識することもなかった自分自身の身体やその何気ない所作、日常生活の一つひとつまでが、ある種の痛切さを伴って感じられたりもします。

そうした時期を過ごす病院を、こころの通つた温もりの感じられる人間らしい空間に近づけようという願いから、「びょういんあーとぷろじえくと」は2008年秋、札幌ライラック病院の待合室から始まりました。その後、コロナの時期を挟みながらもほぼ毎年のように、医療の場にアート作品を展示する企画として、多数の関連企画とともに続けられています。その活動は病院内のみならず、患者のご家族や近隣の皆様からも「地域の皆様に開かれた」活動として評価されています。

「人は誰しも手さぐりの中、互いの手を必要としあつて生きています。病院は、そのことに改めて気付かせてもらえる場があります。その難しさと同時に、素晴らしさを実感させてもらえる場でもあります。絵を描くこと・何かを創ることは、世界から受け取ったものを形にしてみようとすることで、それはまた一つの求めあいを形にしてみる方法です。自分が、そしてそばにいる人が、一体何に手を延ばし、何を求めているのか、それを分かち合いたいという願いからの試みです」。(初回の開催趣旨より)

主催者たちのこうした思いが、今年は「とどける・むすぶ」というテーマの企画展になりました。3人の作家がそれぞれに、その必然的な手法で掬い取った世界が作品という形で、その空間で時を過ごす人々と共に静かにたたずみます。

アートは、周囲の環境を生き生きと受け止め、自ら人やモノとの関係性を日々紡ぎなおしている人間の感受性を前提としています。その場にアートがあること自体が、「感受する主体としての人間」を無言のうちに呼び覚ますと言えるかもしれません。

医療の場が同時に表現の場でもあることで、不安や孤独ではりつめた空気を少しでもやわらげ、心のゆとりをもたらし、ような、響きあいの場を今年も共に創りあげることが願っています。

表紙の絵: K.S(北の峯学園絵画クラブ)
会場: 医療法人北志会 札幌ライラック病院1F 待合室、通路、他
主催: びょういんあーとぷろじえくと
後援: 札幌市、札幌市教育委員会
(公財)北海道文化財団 (公財)道銀文化財団
NPO法人市民と共に創るホスピスケアの会

びょういんあーとぷろじえくと2025 とどける・むすぶ
2025年5月12日(月)～9月27日(土)
12:00-18:00

杉山 優子 Sugiyama Yuko

美術家。京都府南丹市在住。1961年岩手県盛岡市生まれ。幼少の頃は札幌に暮らし、その後、関東、関西地域に住む。1981年より1994年までは、「熊谷優子」名で活動。1986年東京芸術大学大学院美術研究科（油画）修了。2007年より京都芸術大学通信教育課程非常勤講師。

布で作ったクッション状のオブジェを絵の具のようにあつかい、直接壁に設置する「絵画的なインスタレーション作品」およびワークショップを、画廊や美術館等で発表。「びょういんあーとぶろじえくと」メンバーとの出会いから、病院にアートがあることに関心を持ち、初参加。作品と共に在ることで、検査や診察を待つ間が、つらさを忘れて穏やかな時間として動き出すことを願って。



作品タイトル：「夜のあいだ」

素材：絵葉書、大正時代の雑誌、アクリル絵具など

瀬川 葉子 Segawa Yoko

美術家。1955年札幌市生まれ。札幌在住。北海道教育大学札幌分校特設美術課程卒業。

日常身近にある紙や包装紙を素材にして、ファイルしたり、コラージュしたりして、暮らしの中にふと感じる自然を表している。小児科で、子育てが楽しいものであってほしいと願い、院内で子どもの作品展示などを行ったことが、びょういんあーとに参加するきっかけとなった。

今回の札幌ライラック病院の展示では、北国の初夏の木々の緑、花の蕾、光などを、コラージュで表している。また、『とどける・むすぶ』のテーマにより、大切な友人たちとの交流の中で得た素材を使い、手紙をやりとりするような形をとった作品を作っている。



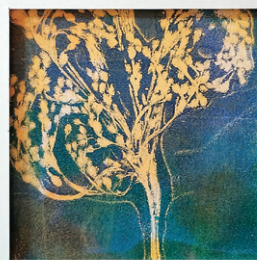
作品タイトル：「手紙」

素材：紙 切手 アクリル絵の具 シールなど

日野間 尋子 Hinoma Hiroko

美術家。札幌市在住。1962年、夏、北海道旭川市生まれ。1984年、北海道女子短期大学工芸美術油彩コース専攻科修了。

1986年より札幌、東京にて個展、グループ展等。2000年-2006年、欧州でのアートプロジェクトに参加。その間、芸術療法士（音楽/美術）との出会い、共同制作を通して「ケアとアート」の接点に注目ようになる。2004年、ザルツブルク（オーストリア）市内の病院で開かれていた展覧会をみて心動かされる。札幌に帰り、障害者支援施設と精神科病院で働く傍ら、2008年、札幌ライラック病院にて「びょういんあーとぶろじえくと」の活動をはじめ。何気ない日常の中で感じた風や光、人とのめぐりあいを大切にしていきたい。



作品タイトル：「日めくり」

素材：和紙、アクリル絵具

関連企画

ワークショップ

こころと触れあうアートワーク

日時：2025年6月16日（月）13:30～15:30
会場：NPO法人市民と共に創るホスピスケアの会 事務所
定員：10名（先着）
参加費：300円



■ファシリテーター：杉山 優子

■内容：はじまりは小さな点と点。色とりどりのパステルで、色に気持ちをのせて描いたりクルクル混ぜながら、うまれる変化を楽しむワークです。アートを通じて自分の心と触れ合ってみませんか？

企画共催

NPO法人市民と共に創るホスピスケアの会
メール：shimin-hospice@nifty.com

第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

ソーシャルアクティビティ企画参加

「まどらさるケア×アート」 ブース/ワークショップ出展

会期：2025年6月21日（土）～22日（日）
会場：札幌コンベンションセンター

ワークショップ出展

自由に造形あそび

■内容：さまざまな素材と道具を使って、自由に造形します。決められたテーマや作り方はなく、のびのびと遊びながら造形するプロセスでの学びを重視した、こどもの創造力を引き出していくワークショップです。

■講師：梅田 真紀

■略歴：糸びと工房こども美術室を開室し、アートワークショップを多数実践。映像装置の制作研究も行う。現在、小田原短期大学保育学科助教、星槎道都大学非常勤講師、札幌大谷大学短期大学部非常勤講師、札幌国際大学・短期大学部非常勤講師。

ブース出展

参加アーティスト

梅田 力 彫刻家 / 星槎道都大学准教授

梅田 真紀 アートワークショップデザイナー / 大学助教

小林 麻美 画家 / 日本芸術療法学会会員

佐藤 隆之 美術家 / 北海道美術工芸協会会員

日野間 尋子 美術家 / 日本美術家連盟会員

ワークショップ出展

①たねをつくろう ②植物を描こう

■内容：①種子や豆類の観察や触り心地を楽しんだ後に、実際に5倍サイズ程で「オリジナルの種子」を粘土に触りつつ想像してつくります。②サンプルの種子作品からお気に入りのものを選んで、その種が育った時の「架空の植物」を描きます。①②を続けて参加する事も可能です。

■講師：小林 麻美

■略歴：画家 / 中・高美術教員 / 日本芸術療法学会所属。画家としての制作活動と並行し、アトリエでアートワークショップを行う。陶芸療法、園芸療法、箱庭療法等のアートセラピーのメソッドを造形遊びに取り入れ、ワークショップや出張授業の講師を務め、学校や地域における「アートの処方箋」的ケアの在り方を模索。

本展の概要・アクセス

テーマ：「とどける・むすぶ」（びょういんあーとぶろじえくと2025）
会期：2025年5月12日（月）～9月27日（土）12:00～18:00
会場：医療法人北志会 札幌ライラック病院 1F待合室、通路 他
札幌市豊平区豊平6条8丁目2番18号 tel 011-812-8822
美術制作：北の峯学園絵画クラブメンバー、杉山 優子、瀬川 葉子、日野間 尋子
テキスト：加藤 康子
デザイン：井上 始子
主催：びょういんあーとぶろじえくと
後援：札幌市、札幌市教育委員会（公財）北海道文化財団
（公財）道銀文化財団 NPO法人市民と共に創るホスピスケアの会



ご連絡先

びょういんあーとぶろじえくと代表
日野間 尋子（ひのまひろこ）

✉ メール
hpj2025@hinoma.com

📱 フェイスブック
www.facebook.com/Byouinatopurojekuto

🏠 ホームページ
www.hinoma.com/hospitalart/

